再評価調書

	事業名	街路事業(都市計画道路				
	7 31 1		四丁目、大野一丁目、大野			
	所 在 地 ———————————————————————————————————	//////////////////////////////////////		_ 1 11		
再評価理由		事業採択後 10 年を経過した時点で継続中				
	目 的	的 大東市を東西に貫く幹線道路であり、大阪と奈良とを結ぶ主要幹線				
		主要地方道大阪生駒線の	曼性的な交通混雑を緩和す	るものとして、道路新		
		設するものである。				
	内 容	延長 0.7 km(JR学研都市線~主要地方道八尾枚方線)				
		幅員 16.0m				
=		道路区分 第4種2級	2 車線道路			
事業	事業費	全体事業費:約48億円 うち投資済事業費:約27億円				
概		(内訳)用地補償費約44億円 (内訳)用地補償費約25億円				
要		(用地補償単価約43万円/㎡)				
•		工事費等約4億円 工事費等約2億円				
		(工事費等単価約60万円/m)				
	維持管理費	約3.8百万円/年(約5.7百万円/km・年)				
	上位計画	大阪府交通道路マスタープラン				
		大阪府都市基盤整備中期計画(案)				
	関連事業					
	経過	 計画時の想定	現時点での状況	分析		
			 事業採択年度:H8 年度			
		事業着手年度:H8 年度	事業着手年度:H8 年度			
		完成予定年度:H14 年度	完成予定年度:H20 年度			
	進捗状況		用地: 70%	JR学研都市線から		
事業			工事: 50%	約300m区間につ		
の進				いて、重点的に事業		
事業の進捗状況				進捗を図っている。		
況	途中段階の	JR学研都市線から約3	└───── 0 0 m区間を先行整備し、			
	整備効果	ら事業推進に努める。				
	発 現 状 況					
	事業進捗に					
	関する課題					

		計画時の想定	現時点での状況	分析
		│───────────── │主要地方道大阪生駒線の	 計画時と同様に、主要地方	
		慢性的な交通混雑の緩和、	道大阪生駒線の慢性的な	
		並びに当地域における交	交通混雑の緩和、並びに当	
		 通安全の確保の観点から、	地域における交通安全の	
		 本路線の整備に着手した。	確保の観点から整備を行	
	事業目的に関する諸状況		う必要がある。	
		(周辺道路)	(周辺道路)	交通量、混雑度ともに減少
		大阪生駒線	大阪生駒線	傾向であるが、依然とし
		交通量 24,251 台	交通量 22,647 台	て、交通混雑していること
		混雑度 1.86	混雑度 1.72	から、この緩和を図る必要
		旅行速度 7.0km/h	旅行速度 14.7km/h	がある。
事		平成6年交通センサス	平成11年交通センサ	
		より	スより	
事業を巡る社会情勢の変化	する			
巡	諸			
社	沿			
会情				
勢の				
変				
1七				
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	六海阜 泊焼舟レナルば小	- 東西の中代に立
	地	地元市である大東市に、用	交通量、混雑度ともに減少 傾向であるが、依然とし	平成20年度の完成に向け、引き続き地元の協力を
	元等	地買収委託を行っており、 事業推進協力を得ている。	「傾向であるか、依然とし て、交通混雑していること	
	地元等の協力体制	尹未)世に励力で待しいる。	から、早期整備が望まれて	(日で、事業の進抄に労める。) る。
	力		いる。	<i>`</i> ⊌₀
	体制		V 1.00	

					分析
		計画時の想定	現時点での状況(変更点) 備 考		
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出することができなかったものの、本事業整備による事業効果が期待される。	・具体的な便益内容 走行時間の効果 (走行時間の短縮) 走行経費の効果 (時間短縮による走行経 費の節減) ・受益者 道路利用者	・B/C=3.34 便益総額 B= 158.7億円 総費用 C= 47.4億円 算出根拠 費用便益分析マニュアル(国土交通省平成15年8月)	本整備による事業効果が期待できる。
	その他の指標 (代替指標)				
	安全・安心	・歩車道分離による歩行者・自転車の安全性の確保	・受益者 地域住民、道路利用者	変更点特になし	
事業効果の定性的分析	活力	・物流の効率化の支援 ・地域間交流連携の強化	・受益者 地域住民	変更点特になし	
	快適性	・十分な幅員が確保された歩道による快適性の向上 ・周辺狭小道路の迂回交通量減少による快適性の向上	・受益者 地域住民、道路利用者	変更点特になし	
	その他				
自然環境等への 影響と対策		・道路の整備により旅行速度が向上し、CO2の排出量が削減される。		変更点特になし	
その他特記すべき事項					